株式会社 斎藤舗道
DX宣言書

2026年10月30日
株式会社 斎藤舗道
代表取締役 斎藤 正明

❑ 経営理念

地域と人に道をかけ、誠実な仕事で明日をつくる

❑ DXビジョン（2～3年後にありたい姿）

◆ 紙中心の業務を電子化し、業務フローを標準化することで、担当者の不在時でも業務が滞らない体制を構築します
◆ 資格取得支援の明文化と育成計画の作成・共有を通じ、部門をまたいで活躍できる人材を育成します
◆ 関連会社との連携を深め、重複する管理業務を整理し、経営層と担当者の業務負担を軽減します

❑ DX戦略・施策

➢ フェーズ1（2026年11月 ～ 2027年10月）

戦略　「業務棚卸と業務基盤整理の早期着手」

施策
- 関連会社を含め、勤怠の記録方法・早出等の勤務ルールを整理し、将来的な勤怠システム導入に向けて、運用方法を整備
- 既存工事管理システムの活用に向けて、業務の棚卸しを実施し、システム化が可能な業務を選定
- 取引先の同意を得られる範囲で、請求書を郵送からメール送付へ段階的に切替
- 既存の資格取得支援を制度として明文化し、資格取得に応じた手当・賃金制度への反映を検討

➢ フェーズ2（2027年11月 ～ 2028年10月）

戦略　「労務管理業務と見積作成業務の仕組みを整備し、属人化を解消」

施策
- 勤怠・給与システムを関連会社で共通化するとともに、給与明細と年末調整の電子化についても検討
- 営業担当者が外出先で見積書・現場画像を確認できる端末の導入と通信・セキュリティ要件の整備
- 過去の見積書・工事実績等を電子化・蓄積し、見積作成業務を標準化することで、若手社員の育成を進め、複数人が担える体制を整備
- 関連会社を含む社員ごとに1～3年の育成計画を作成し、経営層と現場監督者で育成目標を共有

➢ フェーズ3（2028年11月 ～ 2029年10月）

戦略　「蓄積情報の活用による人材育成と現場力の強化」

施策
- 蓄積された見積書・工事実績等のデータを活用し、過去データに基づく見積り精度および利益管理の高度化を実現
- 見積書作成・現場管理を担う管理職候補を育成するとともに、舗装工事と砂利業務の双方に対応できる多能工の育成を推進
- 関連会社間で配車・材料供給・人員配置の情報共有を進め、経営層の判断と手配を支援

❑ DX推進体制

- 代表取締役がDX推進における実務執行統括責任者を務めます
- 専務取締役と経理担当者を中心としたDX推進チームがDX戦略実行の中心的役割を担います

❑ DX推進目標

- 勤怠管理・給与計算の電子化　：完了（～2028年10月）
- 請求書のメール送付　：80%以上（～2028年10月）
- 育成計画の策定　：全社員分を策定し社内で共有（～2028年10月）

第四北越銀行